

職員退任・離任のお知らせ

今年も、職員の退任式・離任式は、修了式と同日、3月23日（金）に行います。当日は、9時25分から放送で修了式を行い、その後、学級活動を行います。続いて、10時25分から放送にて退任式・離任式を行います。その後、各教室で学級指導、校舎内をめぐる形で見送りを予定しています。

今回も教育委員会の指導により、離任者の異動先は4月1日までは公表できませんので氏名のみお知らせいたします。公表は4月1日付けの朝刊で行います。

離任者	有村奈津子（主幹教諭）	大島 慶子（2年3組担任）	平岡 大輝（3年1組担任）
	杉山九美子（4年2組担任）	日隈 恵子（5年1組担任）	
	池田 敏（SSW）	新川 宏幸（拠点校指導）	
退任者	井元 美弥子（そよかぜ担任）		



学校評価

学校評価は、学校の教育活動や運営の状況について評価を実施し、公表することで学校運営の改善を図ることをねらいとしています。重点目標に対する達成状況、学校関係者評価についての説明を文章でお知らせすることになっています。平成29年度の学校評価のあらまは、下記の通りです。HPに学校評価報告書をご掲載しております。詳しくはそちらもご覧下さい。

重点目標	指標（取組指標・成果指標）	達成状況についての説明
わかる授業・楽しい授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 研修の充実を図る。児童・保護者アンケートにおいて「勉強が分かる・楽しい」のA・B評価80%以上をめざす。 1月の算数復習テストで全学年平均点90点以上をめざす。 家庭との連携を図り、家庭学習満足度（自学を含む）90%以上をめざす。 テーマ研に関する職員の満足度、AB評価90%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期半ばの保護者アンケート、児童アンケートでは80%を大幅に超えている。 12～1月の復習テストでは、90点を超えた学年が3学年という結果になった。全学級平均は87.5点であり、学年によって差が見られる。厳しい学力実態の子どもへの手立てが必要。 家庭学習については、保護者AB評価81.6%にとどまった。自学を含めた取り組みを充実する必要がある。 10月の校内研究推進事業では、国語科「話す・聞く」領域で全市にむけて公開授業を行った。学年で協働的に研究を進め、他教科・領域で活用できる内容を構築した。3学期単元でも研究の内容を生活科や総合で活用する姿が見られ、職員の満足度は90%を超えた。
やさしく、思いやりのある子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心とした、いじめゼロの取組を継続する。 無言清掃に取り組み、児童や教員のアンケートによりA・B評価85%以上の定着をめざす。 特別支援研修、人権教育研修に関する教員の満足度A・B評価90%達成をめざす。 児童のアンケートにより居心地のいいクラスA・B評価95%達成をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校ブロック「ハッピーシャインプロジェクト」に基づき、ハイタッチ運動、児童会による挨拶名人の放送を行った。いじめアンケートの実施と分析をもとに、地域との連携も図った。 月のめあてと関係づけた取り組み（掃除時計、児童環境委員会による「もくもく清掃」の放送）により職員の2学期末のAB評価は90%を超えたが、保護者アンケートの結果を見ると、改善の余地があることがわかる。 校内講師によるQUアンケート研修、UDに基づいた授業づくり研修等により、職員の満足度は90%を超えている。 居心地のいいクラス（人的な環境）の児童アンケートの結果は76%であった。24%の子どもへの手立てが必要。UDに基づいた物的な環境に対しては肯定的な受け止めの子どもの多い。※UD…ユニバーサルデザイン
保護者・地域・関係機関と連携した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> GTを位置づけた道徳単元の開発や、NSを導入した外国語活動等を通して、長期的な見通しのもと、教育課程の改善を行う。 保幼小連絡会を充実させ、3学期の生活科単元で幼児児童の交流を取り入れる。 保護者との連携を強め、職員の研修を充実させて、アレルギー誤食事故0をめざす。 PTA・地域行事等への参加状況を問う、保護者アンケートAB評価60%をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 主幹教諭による道徳示範授業の実施、早良区外国語活動基幹校としての取り組み（公開授業11月9日）を経て職員の意識が高まった。 6月保幼小連絡会の初実施、3学期のふたば保育園、室見幼稚園との1年生活科での交流行事が実現した。 エピベン研修・AED 研実施。アレルギー誤食事故0。保護者との連携の強化が必要。 PTA・地域行事等への参加状況を問う、保護者アンケートAB評価は50.1%にとどまった。高学年になるにつれて参加率が低い。

学校関係者評価（評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等）

- ・保護者アンケートで家での読書の数値が低くなっているのが気になる。生活の中に学習が根付くような生活習慣があればいい。家庭でも読書環境を整える必要があるのではないかな。
- ・体育館がないからこそできる放送での始業式・終業式等に地域の方を招いて、子どもに地域の方の顔を知ってもらう取り組みをしたり、PTA広報紙にキーホルダーに関わって下さった地域の方の記事を載せたりしているのが評価できる。
- ・保幼小連携行事や、地域との連携行事等で、地域の方々へのあいさつは、少しずつよくなっている。
- ・地域との連携については、今後、公民館が学校の敷地内に建つので、公民館の行事に子どもや保護者を呼び込む手立てが必要。英語の時間が増えるので、学校・PTAと共催で留学生との交流行事なども視野に入れていくのもいいかもしれない。以前、西南学院大学のインターナショナルハウスとの交流を行っていたこともあった。
- ・95%等、指標の目標値が高すぎる箇所があるのではないかな。見直されてよいと思う。

課 題	改善の方策
個に応じた主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連した自学のあり方についてさぐるとともに、ふみの目を生かした読書活動を位置づける。 ・「放課後ふれあい学び舎事業」を生かし、学力保障に努める。
人権意識・自尊感情の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研修を充実させ、QUアンケート研をもとに集団づくりの手立てを学ぶと共に、教師自身の人権感覚を磨く。 ・特別支援教育研修を充実させ、UDの視点に基づいた環境作り・授業づくりを充実させる。※UD…ユニバーサルデザイン
保護者・地域・関係機関と連携した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携や地域との連携行事を継続・進化させる。保護者同士・関係機関とつなぐ学校内の取り組みも充実させていく。 ・公民館との連携の具体的なあり方をさぐり、31年度につなぐ。